

日本大学工学部

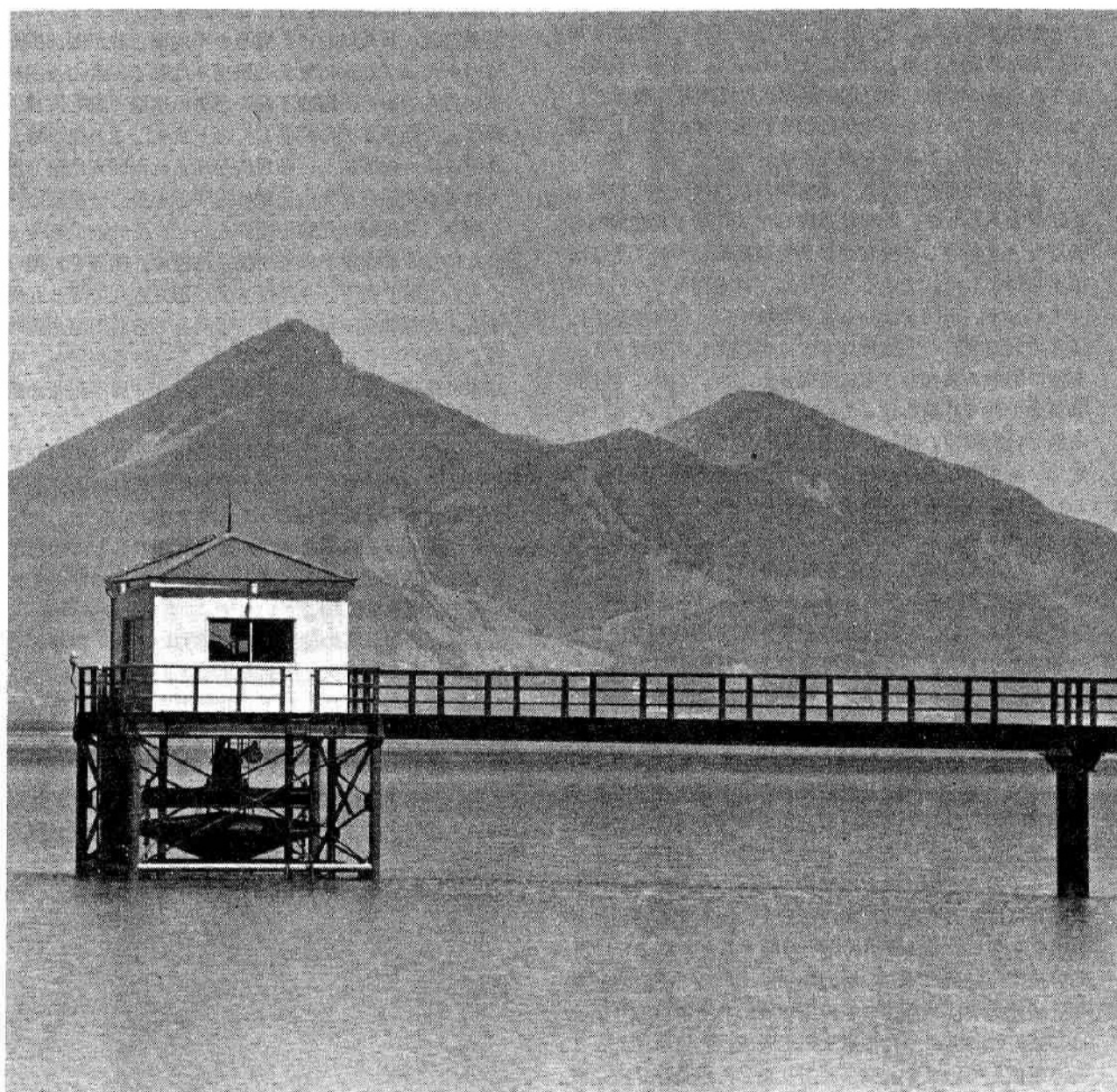
# 校友会報

第 33 号

昭和53年7月10日

## 目 次

|                  |     |
|------------------|-----|
| あいさつ(工学部長・校友会長)  | 2   |
| 昭和53年度第21回定期総会開催 |     |
| される              | 3~6 |
| CAMPUSminiMEMO   | 7   |
| 表紙の写真に題して        | 8   |
| 事務局だより           | 8   |
| 事務局人事            | 8   |



猪苗代湖に設けられた郡山市上水道、取水塔(取水能力76.896 $m^3$ /日)



## ごあいさつ

日本大学工学部長

外 木 有 光

日本大学工学部校友会は今年も多くの新会員を加えて、毎年その数が増加するとともに、いよいよ発展・充実していることを心強く思い、会員諸兄の一層の御活躍を祈念しています。学校では4月3日に入学式を挙行し、これに引き続いて本年度の授業が開始され、教育は現在予定通り順調に進められています。昨年秋工学部の30周年を記念するにあたり、行事のひとつとして、校友、父兄、教職員が協力し、古田重二良先生の銅像を建立することを計画してこれを実行に移し、予期以上の成果をおさめて完成することができました。それには工学部校友会の設立20周年にあたる記念行事ということもあって、諸兄が先頭にたちあがってこの完遂に尽瘁された熱意に負うところがきわめて大きく、工学部校友諸兄の和の力による賜であると深甚なる敬意を表します。

いま校友会事務局がある部室棟の使用について検討した結果とあわせて、昨秋落成した30周年記念会館の管理などを考慮し、校友会事務局の移転についてもほぼ成案を得ました。できるだけ早くこれを実現したいと思っています。正門をはいって管理棟に向う道路の左手に並んでいる平屋の実験棟はすでに老朽化してきたうえ、実験に関する教育をさらに充実するため、これまで建設委員会で種々計画を練った結論にしたがって、それに代る新しい実験棟の建設に着工し、来年6月には竣工の予定でいま工事が進められています。平屋実験棟がとり払われた跡には、それを活用するための次の計画を当座めていく積りでいます。運動場についても、いま将来を考慮しての計画をたて、その実現に努力しているところです。日本大学は来年10月4日創立90周年を迎えることになりますが、これは創立100年を期してのひとつの節であります。こうした意味で多く計画がたてられています。すでに本部を移転するための用地の購入を終り、そこに建築する建物には学術・文化・教育の向上のため機能を果す内容を盛りこむことになっています。そしてこれらすべての計画を効果あるものとして実現するため、関係諸機関・校友・教職員などから資金の援助をお願いする予定になっています。その節は格別の御高配を得たく思っております。以上は学校の近況の一部ですが、校友諸兄にはこの不況のなかにあつて、当面するあらゆる困難を克服しつつ日夜新局面を開拓するためにさらに新しい技術の開発に渾身の努力を傾けていることと思います。諸兄が学んだ郡山の地の工学部にある精神的な伝統は、諸兄のうちにつねに息吹いて大成される原動力となると確信しています。機会がありましたら是非学校に来られて発展していく学校の実状を御覧いただきたいと思っています。校友諸兄が厳しい現実の社会にあつて、自らを磨き大成される姿を心に描き校友会報第33号のあいさつといたします。(日本大学教授・工学部校友会顧問)



## ごあいさつ

日本大学工学部校友会

会長 武 田 仁 幸

第21回通常総会に於いて、再び会長を命ぜられ、考え一入の思いでございます。昨年は本学部開設30周年。そして本年は我々校友会の20周年と幾重の喜び事等。またこれにもまして校友諸兄の国内、外でのご活躍を見聞する時、この上ない喜びとするところでございます。しかしながら我が国の経済は、石油危機以来の不況が、産業の構造的要因を加えて一段と深刻化し、企業の倒産、縮小による失業者の増大など、雇用不安が極度にたかまってきております。又、国際的に目を転じますと、アメリカの保護貿易主義、ECにおける貿易の不均衡、我が国、国際収支のギャップ拡大に対する風当りは強く、大巾な円高が追い打ちをかけ、国内不況を最悪の事態に陥し入れ、戦後最大の経済危機に直面しております。この様な時、我々校友は一致団結し、各自に与えられた職責に全力投球されん事を望みます。先輩は本学部を巣立つ後輩に門戸を開き、又後輩は先輩の門戸をたたいて一人でも多く社会人になる道を歩かれます様、格段のご配慮をお願いするものであります。今年には本会が創立されて満20周年を迎えた意義ある年であり、趣向をこらした記念誌の編纂を企画いたしておりますほか、本会の事務局が、昨年立派に完成いたしました工学部開設30周年記念会館に入室させて頂きたくお願いしておりましたところ、工学部長先生より心あたたまるお言葉をいただいております。又、この外に本会の運営上やむにやまれぬ入会金の値上げの件を考えたいと思っております。

今年度は以上の様な3つの事業計画のもとに前向きな姿勢で本学部発展と本会発展のために微力ではありますが努力いたす考えでございします。

是非、会員皆様の絶大なるご協力により、実りある記念の年にしたいと考えております。

尚、本会の支部は、目下、北海道支部、東京支部、東海支部の三つであります。更に支部組織を充実して、将来の活動の基盤にしたいと思っております。

幸い、本年は、学部の関係者のご尽力もあり、九州地区に支部発足の気運が熟して、分会程度の組織が発足できそうです。

母校の発展は、何と申しても我々校友の社会的活躍に負うところが大きいものと存じます。

会員の皆様には、校友会活動の内容をよく理解されて、御援助下さいませよう重ねて御願い致します。

(土木工学科第3回卒業・東和工業株式会社)



## 昭和53年度 第21回定期総会開催される

第21回定期総会は、一年前に校友高橋暁氏市長誕生の必勝を誓い合った 日本大学郡山研修会館に於いて、4月22日(土)、午後3時より会員多数の出席のもとに開催されました。高橋新市長は郡山27万市民の協力のもとに市政一年を迎えました。又12年余の長きにわたり、皆さんの窓口となりお世話いただいた白石実氏は諸事情により校友会を勇退することになりました記念すべき総会でもあった。

さて総会は武田副会長の開会の辞に始まり、松山会長の挨拶、次いで議長に佐藤吉新(土6回)、書記に曾部忠義(電20回)、寺田聖一(機22回)、議事録署名人として、後藤尚(化2回)、村田吉晴(土12回)氏とそれぞれ選出され、直ちに議事に入った。尚本総会に東海支部長他役員の方々の御出席を載き、旧友の顔々が交錯する中で本会の重要な議案・52年度の計画・実施並びに53年度予算案につき審議し意識ある総会となりました。

議事の進行と結果は次の通りである。

○第1号議案 昭和52年度会務報告、佐藤事務局長  
会議関係：理事会・役員会、各種委員会、東海、北海道各支部総会等定期的に開かれ、会務を処理した。

事務関係：特に52年度は、工学部30周年記念、古田先生銅像建立に関する事業等大きな事業が重なったこと、昭和51年度第25回卒業生の会員名簿の作成、会報第31号、32号の2回発行、あかしや図書援助、学術研究報告会への援助、課外活動費援助等従来の事業も完遂したと報告があった。次いで質疑に入り、水田氏(機4回)が古田先生銅像建立についての世話人とはどんなことか、小川氏(化14回)が、寄付金の内訳につ

いて等の質問があつて、松山会長並びに佐藤事務局よりそれぞれ回答された。協議の結果報告通り承認された。  
○第2号議案、昭和52年度会計報告と監査報告決算報告書(表-1)により武藤経理部長より説明があり、次いで会計監査委員3名を代表し、高野操(化3回)監査委員より監査報告があつた。

○第3号議案 昭和53年度事業計画と予算案審議

根本事業部長より詳細説明があり、当面重要な課題としては、校友会開設20周年記念事業として「記念誌」の発行を計画し、実施したいこと、その他従来通りの事業はそのまま実施したいと報告があり、次いで、(表-2)にもとずき、武藤経理部長より予算案の説明がなされた。以上報告後第2号・第3号議案一括審議に入った。連絡協議会費とは、52年度の特別会計は前年度の総会で承認されたものか、下宿斡旋の方法は現状のままで良いか等、質疑応答の結果、金額が多くなっているのが有効的に使われるよう要望もあり、承認された。

○第4号議案 昭和53年度役員選出の件

選考委員を設けて、別室に於いて長時間にわたり新役員の選考を行った。選考委員を代表して関根正一(電3回)氏より新役員の発表があつた。但し、人選に難行した為に会長に武田仁幸、副会長に半沢忠のみ役職を決め、他は理事として選考した。よって役職と理事1名は会長一任とし、後日会報にて報告することで承認された。(53年4月27日 会長一任により(表-3)の通り役員を選出した)

以上をもつて議案の審議を終わり、半沢副会長の挨拶で閉会となる。引続き、懇親会に入り、日本大学副総長外木有光先生より御挨拶、祝電披露、乾杯と続き、祝宴に入った。旧友まじわる中での話題は多く、市長当選のこと、副総長誕生のこと、白石実事務職員の勇退、ゴルフ、等近況を時を経つのも忘れ楽しく過した。最後に佐久間明俊(土21回)の音頭で校歌を合唱し、来年又再会することを約し、散会した。



(総会風景)



(懇親会の模様)

表-1

## 昭和52年度歳入・歳出決算報告書

## I 運用費

昭和53年3月31日現在

## (1) 一般会計

| 歳入の部 |            | 単位 円 △印……減 |       |            |             |
|------|------------|------------|-------|------------|-------------|
| 款 項  | 種 目        | 予算額        | 件 数   | 決算額        | 増 減         |
| 会 費  | 1 終 身 会 費  | 5,000      | 1,261 | 6,212,000  | 6,207,000   |
|      | 2 入 会 金    | 5,000      | 1,330 | 6,648,000  | 6,643,000   |
| 繰越金  | 3 前年度繰越金   | 1,161,526  | 1     | 1,161,526  | 0           |
| 雑入   | 4 預 金 利 子  | 10,000     | 3     | 87,174     | △ 128,25    |
|      | 5 雑 入      | 10,000     | 101   | 128,100    | 118,100     |
| 繰入金  | 6 基本財産より繰入 | 3,564,732  | 1     | 430,041    | △ 3,134,691 |
| 合 計  |            | 15,300,000 | 2,697 | 25,120,943 | 9,820,943   |

## 歳出の部

単位 円

| 款 項   | 種 目          | 予算額        | 件 数 | 決算額        | 増 減     |
|-------|--------------|------------|-----|------------|---------|
| 事 務 費 | 1 給 料 ・ 手 当  | 3,310,000  | 29  | 3,155,053  | 154,947 |
|       | 2 保 険 料      | 331,000    | 13  | 325,030    | 5,970   |
|       | 3 交 通 費      | 350,000    | 2   | 350,000    | 0       |
|       | 4 旅 費        | 150,000    | 10  | 132,930    | 17,070  |
|       | 5 交 際 費      | 300,000    | 28  | 294,540    | 5,460   |
|       | 6 消 耗 品 費    | 100,000    | 22  | 68,704     | 31,296  |
|       | 7 備 品 費      | 50,000     | 0   | 0          | 50,000  |
|       | 8 印刷製本費      | 420,000    | 11  | 334,565    | 85,435  |
|       | 9 通信運搬費      | 167,000    | 18  | 156,970    | 10,030  |
|       | 10 修繕維持費     | 10,000     | 1   | 15,000     | 8,500   |
|       | 11 光熱及水道料    | 30,000     | 2   | 11,000     | 19,000  |
|       | 12 雑 費       | 60,000     | 40  | 57,340     | 2,660   |
| 計     |              | 5,278,000  | 176 | 4,887,732  | 390,268 |
| 事業費   | 13 組織対策費     | 150,000    | 3   | 90,000     | 60,000  |
|       | 14 会報発行費     | 230,000    | 16  | 221,940    | 8,060   |
|       | 15 名簿作成費     | 50,000     | 2   | 49,900     | 100     |
|       | 16 下宿対策費     | 10,000     | 1   | 3,800      | 6,200   |
|       | 17 図書供与費     | 50,000     | 1   | 50,000     | 0       |
|       | 18 卒業式典費     | 151,900    | 6   | 135,296    | 16,604  |
|       | 19 負担・補助・援助費 | 650,000    | 3   | 650,000    | 0       |
|       | 20 旅 費       | 405,000    | 6   | 374,200    | 30,800  |
| 計     |              | 6,039,000  | 38  | 5,689,746  | 349,254 |
| 会議費   | 21 総 会 費     | 400,000    | 8   | 399,820    | 180     |
|       | 22 役 員 会 費   | 358,291    | 20  | 293,830    | 64,461  |
|       | 23 連絡協議会費    | 364,755    | 4   | 364,759    | 0       |
|       | 24 旅 費       | 376,950    | 20  | 376,950    | 0       |
| 計     |              | 1,500,000  | 52  | 1,435,359  | 64,641  |
| 予備費   | 25 予 備 費     | 483,000    | 6   | 483,000    | 0       |
|       | 計            | 483,000    | 6   | 483,000    | 0       |
| 積立金   | 26 積 立 金     | 200,000    | 1   | 200,000    | 0       |
|       | 計            | 200,000    | 1   | 200,000    | 0       |
| 合 計   |              | 15,300,000 | 273 | 14,455,837 | 844,163 |

## (2) 特別会計

|          | 予算額       | 歳入額       | 歳出額       | 残 高 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| 基本財産より繰入 | 3,000,000 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0   |

## (3) 運用費現在高

|      | 歳入額        |            | 歳出額        |            | 現在高        |            |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|      | 内 訳        | 計          | 内 訳        | 計          | 内 訳        | 計          |
| 一般会計 | 25,120,943 | 25,120,943 | 14,455,837 | 14,455,837 | 10,665,106 | 10,665,106 |
| 特別会計 | 3,000,000  | 3,000,000  | 3,000,000  | 3,000,000  | 0          | 0          |

表-2

## 昭和53年度歳入・歳出予算書

## (1) 一般会計

歳入の部

単位:円 △印……減

| 款 項 | 種 目        | 予算額        | 前年度予算額     | 比較・増減       |
|-----|------------|------------|------------|-------------|
| 会 費 | 1 終 身 会 費  | 5,000      | 5,000      | 0           |
|     | 2 入 会 金    | 5,000      | 5,000      | 0           |
| 繰越金 | 3 前年度繰越金   | 1,062,510  | 1,161,526  | △ 99,016    |
| 雑入  | 4 預 金 利 子  | 10,000     | 10,000     | 0           |
|     | 5 雑 入      | 10,000     | 10,000     | 0           |
| 繰入金 | 6 基本財産より繰入 | 2,864,894  | 3,564,732  | △ 699,838   |
| 合 計 |            | 13,610,000 | 15,300,000 | △ 1,690,000 |

## 歳出の部

単位:円 △印……減

| 款 項   | 種 目          | 予算額        | 前年度予算額     | 比較・増減       |
|-------|--------------|------------|------------|-------------|
| 事 務 費 | 1 給 料 ・ 手 当  | 3,641,000  | 3,310,000  | 331,000     |
|       | 2 保 険 料      | 364,000    | 331,000    | 33,000      |
|       | 3 交 通 費      | 350,000    | 350,000    | 0           |
|       | 4 旅 費        | 165,000    | 150,000    | 15,000      |
|       | 5 交 際 費      | 300,000    | 300,000    | 0           |
|       | 6 消 耗 品 費    | 100,000    | 100,000    | 0           |
|       | 7 備 品 費      | 25,000     | 50,000     | △ 25,000    |
|       | 8 印刷製本費      | 300,000    | 420,000    | △ 120,000   |
|       | 9 通信運搬費      | 180,000    | 167,000    | 13,000      |
|       | 10 修繕維持費     | 10,000     | 10,000     | 0           |
|       | 11 光熱及水道料    | 30,000     | 30,000     | 0           |
|       | 12 雑 費       | 60,000     | 60,000     | 0           |
| 計     |              | 5,535,000  | 5,278,000  | 257,000     |
| 事業費   | 13 組織対策費     | 150,000    | 150,000    | 0           |
|       | 14 会報発行費     | 250,000    | 230,000    | 20,000      |
|       | 15 名簿作成費     | 540,000    | 500,000    | 40,000      |
|       | 16 下宿対策費     | 10,000     | 10,000     | 0           |
|       | 17 図書供与費     | 500,000    | 500,000    | 0           |
|       | 18 卒業式典費     | 1,150,000  | 1,519,000  | △ 369,000   |
|       | 19 負担・補助・援助費 | 650,000    | 650,000    | 0           |
|       | 20 旅 費       | 450,000    | 405,000    | 45,000      |
| 計     |              | 3,505,000  | 6,302,000  | △ 2,797,000 |
| 会議費   | 21 総 会 費     | 400,000    | 400,000    | 0           |
|       | 22 役 員 会 費   | 350,000    | 400,000    | △ 50,000    |
|       | 23 連絡協議会費    | 400,000    | 350,000    | 50,000      |
|       | 24 旅 費       | 500,000    | 350,000    | 150,000     |
| 計     |              | 1,650,000  | 1,500,000  | 150,000     |
| 予備費   | 25 予 備 費     | 920,000    | 220,000    | 700,000     |
|       | 計            | 920,000    | 220,000    | 700,000     |
| 積立金   | 26 積 立 金     | 200,000    | 200,000    | 0           |
|       | 計            | 200,000    | 200,000    | 0           |
| 合 計   |              | 13,610,000 | 15,300,000 | △ 1,690,000 |

歳入額 13,610,000円 歳出額 13,610,000円

差引残額 なし

## (2) 特別会計

歳入の部

歳出の部

|          | 予算額        | 予算額        | 差引額 |
|----------|------------|------------|-----|
| 基本財産より繰入 | 4,100,000円 | 4,100,000円 | 0円  |

(3) 歳入合計額 17,710,000円

歳出合計額 17,710,000円

差引額 なし

## 昭和53年度 校友会役員



会 長 武田 仁幸  
土木3回(昭和29年度)卒  
東和工業㈱自営



理 事(会報、図書担当)  
松山 光克  
土木3回(昭和29年度)卒。  
郡山市水道局建設課勤務



副 会 長 太田雄八郎  
土木3回(昭和29年度)卒。  
郡山市役所土木建設課勤務



理 事(卒業生名簿担当)  
佐藤 満夫  
建築6回(昭和32年度)卒。  
日本大学工学部建築学科勤務



副 会 長 半沢 忠  
化学6回(昭和32年度)卒。  
パラマウント硝子工業㈱研究課  
勤務。



理 事(卒業生名簿担当)  
小栗 治男  
建築7回(昭和33年度)卒  
日本大学工学部建築学科勤務



事務局長 佐藤 光正  
機械9回(昭和35年度)卒。  
日本大学工学部機械工学科勤務。



理 事(下宿担当)  
古橋 栄吉  
建築8回(昭和34年度)卒  
日本大学東北高等学校勤務



理 事(経理部長)  
武藤 貞泰  
土木8回(昭和34年度)卒。  
郡山市役所下水道課勤務



理 事(会報担当)  
高久田 稔  
電気9回(昭和35年度)卒  
県立白河農工高等学校勤務。



理 事(事業部長)  
西村 孝  
土木13回(昭和39年度)卒。  
日本大学工学部土木工学科勤務



理 事(下宿担当)  
小川 敏彦  
化学14回(昭和40年度)卒。  
日本大学工学部工業化学科勤務



理 事（卒業生名簿、会報担当）

伊藤 義人

電気 16 回（昭和 42 年度）卒  
郡山市水道局建設課勤務



理 事（図書担当）

今村 仙治

機械 17 回（昭和 43 年度）卒。  
日本大学工学部機械工学科勤務



理 事（下宿担当）

鈴木 清司

機械 17 回（昭和 43 年度）卒。  
郡山三菱自動車販売株式会社勤務

## 評 議 員

| 役 名     | 卒 業     | 氏 名     | 勤 務 先        |
|---------|---------|---------|--------------|
| 会 計 監 査 | 機械 2 回  | 菅 野 宗 和 | 日本大学工学部機械工学科 |
| 同       | 工化 3 回  | 高 野 操   | 日本大学工学部工業化学科 |
| 同       | 建築 3 回  | 木 村 圭 二 | 郡山市役所        |
| 評 議 員   | 土木 5 回  | 梅 原 正 章 | 日東建設㈱郡山営業所   |
| 同       | 土木 6 回  | 佐 藤 吉 新 | 有共立水道測量設計    |
| 同       | 土木 7 回  | 続 橋 忠 良 | 郡山市役所        |
| 同       | 土木 19 回 | 長谷川 一 夫 | 郡山市水道局       |
| 同       | 土木 21 回 | 広 島 英 憲 | 郡山市役所        |
| 同       | 建築 8 回  | 柳 沼 一 夫 | 郡山市役所        |
| 同       | 建築 10 回 | 橋 本 寛   | 日本大学工学部建築学科  |
| 同       | 建築 15 回 | 馬 場 彦 吉 | 県立郡山北工業高等学校  |
| 同       | 建築 18 回 | 桑 名 六 郎 | 郡山市役所        |
| 同       | 機械 4 回  | 根 本 年 雄 | 日本国有鉄道郡山工場   |
| 同       | 機械 4 回  | 近 藤 功   | 県立二本松工業高等学校  |
| 同       | 機械 22 回 | 寺 田 聖 一 | 日本大学東北高等学校   |
| 同       | 電気 2 回  | 関 根 昭 一 | 県立二本松工業高等学校  |
| 同       | 電気 14 回 | 伊 藤 宣 世 | オーディオ開成㈱     |
| 同       | 電気 20 回 | 曾 部 忠 義 | 郡山市水道局       |
| 同       | 工化 13 回 | 五十嵐 昭 教 | 日本女子工業高等学校   |
| 同       | 工化 15 回 | 小 林 義 美 | 郡山市公害対策センター  |
| 同       | 工化 16 回 | 野 尻 太五郎 | 郡山市水道局       |
| 東京支部長   | 土木 3 回  | 古 村 和 夫 | （自営）古村建設㈱    |
| 東海支部長   | 土木 3 回  | 平 野 卓   | 建設省中部地方建設局   |
| 北海道支部長  | 土木 6 回  | 神 田 哲 夫 | 東急道路㈱札幌支店    |



### ◇ 校友の母校での教員

前々号に続いて、昭和53年4月に昇格された卒業生の教員を紹介します。

助教授 高野 操(工業化学科3回卒)

専任講師 八町 雅康(建築学科15回卒)

### ◇ 学生の実態調査

昭和52年10月に工学部学生生活委員会では、学生の実態調査を行ない、その結果を発表した。アンケートに答えた学生は約3400人であり、その一部を下記に紹介します。

| 通学形態 |       | 住居の様態   |       |       |
|------|-------|---------|-------|-------|
| 徒歩   | 48.8% |         | 工学部   | 全国調査  |
| 自転車  | 21.5% | 自宅      | 13.0% | 51.3% |
| バス   | 2.3%  | 下宿(賄付き) | 54.0% | 4.4%  |
| バイク  | 10.8% | 下宿(賄なし) | 4.2%  | 18.4% |
| 自動車  | 11.2% | アパートなど  | 23.6% | 16.1% |
| 電車   | 5.4%  | 親戚など    | 0.6%  | 1.7%  |
|      |       | 寮       | 4.5%  | 7.4%  |
|      |       | その他     | 0.1%  | 0.7%  |

『実態調査報告書』より

### ◇ 東北工高が校名を変更

工学部と同じキャンパスにある、日本大学東北工業高等学校は、昭和26年の創立以来、四半世紀以上を経たが、53年4月から校名を変更した。設置科は工業科と普通科で今まで通りである。

新校名 日本大学東北高等学校

写真は今年4月に掲げかえられた正門の門標で、新たに「大学院工学研究科」も書き加えられた。



### ◇ 入学者の出身県別の変遷

昭和22年の専門部工科の開設以来の、入学者の各都道府県別の人数を整理してみた。下表の通りですが、昭和22、24、30、42、51年は「工学部三十年史」から転載し、53年は5月1日現在の数である。よくこの表を眺めると、いろいろなことが派生して考えられてくるだろうと思う。

| 年度  | 22  | 24  | 30  | 42   | 51   | 53   |
|-----|-----|-----|-----|------|------|------|
| 県名  |     |     |     |      |      |      |
| 北海道 | 18  | 15  | 30  | 76   | 76   | 84   |
| 青森  | 2   | 1   | 7   | 9    | 14   | 25   |
| 岩手  | 5   | 1   | 10  | 25   | 34   | 35   |
| 宮城  | 9   | 4   | 20  | 26   | 26   | 22   |
| 秋田  | 4   | 1   | 12  | 17   | 33   | 28   |
| 山形  | 9   | 5   | 12  | 29   | 42   | 48   |
| 福島  | 315 | 128 | 62  | 149  | 246  | 225  |
| 茨城  | 20  | 1   | 12  | 44   | 70   | 55   |
| 栃木  | 0   | 1   | 13  | 26   | 76   | 67   |
| 群馬  | 4   | 1   | 5   | 29   | 51   | 56   |
| 埼玉  | 4   | 0   | 8   | 11   | 28   | 29   |
| 千葉  | 3   | 0   | 5   | 17   | 19   | 21   |
| 東京  | 28  | 1   | 32  | 63   | 49   | 57   |
| 神奈川 | 7   | 0   | 17  | 18   | 30   | 24   |
| 新潟  | 8   | 3   | 25  | 42   | 77   | 62   |
| 富山  | 0   | 0   | 4   | 27   | 15   | 9    |
| 石川  | 0   | 0   | 2   | 7    | 9    | 8    |
| 福井  | 0   | 0   | 3   | 8    | 7    | 5    |
| 山梨  | 3   | 1   | 6   | 20   | 18   | 25   |
| 長野  | 6   | 1   | 20  | 23   | 76   | 68   |
| 岐阜  | 4   | 0   | 4   | 20   | 23   | 19   |
| 静岡  | 1   | 1   | 13  | 107  | 89   | 80   |
| 愛知  | 0   | 0   | 8   | 40   | 23   | 38   |
| 三重  | 0   | 0   | 4   | 16   | 17   | 16   |
| 滋賀  | 0   | 0   | 0   | 1    | 4    | 2    |
| 京都  | 0   | 0   | 1   | 2    | 5    | 2    |
| 大阪  | 0   | 1   | 1   | 21   | 6    | 7    |
| 兵庫  | 0   | 1   | 1   | 13   | 10   | 15   |
| 奈良  | 0   | 0   | 2   | 4    | 0    | 1    |
| 和歌山 | 1   | 0   | 1   | 6    | 1    | 1    |
| 鳥取  | 0   | 0   | 0   | 5    | 5    | 8    |
| 島根  | 1   | 0   | 2   | 11   | 2    | 6    |
| 岡山  | 2   | 0   | 7   | 7    | 9    | 8    |
| 広島  | 1   | 0   | 7   | 41   | 26   | 24   |
| 山口  | 0   | 0   | 5   | 21   | 22   | 18   |
| 徳島  | 1   | 0   | 0   | 6    | 2    | 5    |
| 香川  | 1   | 0   | 2   | 6    | 6    | 8    |
| 愛媛  | 0   | 1   | 4   | 18   | 7    | 13   |
| 高知  | 0   | 0   | 2   | 7    | 6    | 4    |
| 福岡  | 3   | 0   | 11  | 35   | 30   | 27   |
| 佐賀  | 0   | 1   | 13  | 8    | 5    | 3    |
| 長崎  | 0   | 1   | 8   | 12   | 9    | 15   |
| 熊本  | 0   | 1   | 4   | 5    | 6    | 8    |
| 大分  | 0   | 0   | 4   | 11   | 18   | 19   |
| 宮崎  | 0   | 0   | 3   | 28   | 7    | 10   |
| 鹿児島 | 0   | 0   | 8   | 3    | 14   | 23   |
| 沖縄  | 0   | 0   | 2   | 4    | 9    | 3    |
| 計   | 460 | 171 | 422 | 1124 | 1357 | 1336 |

## 表紙の写真に題して

我母校日本大学工学部は大きく変った。それは都市化が進む郡山市の要求に応じているかのようでもある。

都市が大きくなるということは、多くの人びとが生活していることであり、それに見合った公共施設が整えられなければならない。

郡山市という行政機関の中にも、桜の門を出た多くの先輩、後輩がおり、「明かるく住み良い郡山市」を建設するために頑張っている。

郡山市水道局は、明治45年(1911)創設以来拡張につぐ拡張をはかってきた。第6次拡張事業は昭和48年度に着手され、同57年度完成をめざして工事が進められている。本事業の一環として施工された猪苗代湖からの「上水道専用導水ずい道」工事は、関係者が永年待ちわびた世紀の事業といっても過言ではないと思う。

本ずい道は湖南町浜路地区の猪苗代湖岸100m沖合いから、ゲートで取水したものを、御霊櫃峠の下を通過する長さ5,304m、2R2mの馬蹄形で30cm巻厚のコンクリートで仕上げられ、導水しようとするものである。逢瀬町大滝地内に下流側坑口が設けられ堀口浄水場までの3,300mは、φ1,000mmの鋼管によって導水しようとするもので、昭和54年4月から76,896 $m^3/D$ が取水され、逢瀬川からの取水量20,000 $m^3/D$ と合わせ、処理能力96,000 $m^3/D$ の堀口浄水場が完成する予定である。(土木6回卒・郡山市水道局勤務・泰裕)

## 事務局だより

### 異動報告について

下記のような異動があったときはすみやかに事務局宛にハガキ又は電話で御連絡くださるよう御協力下さい。

1. 住所が変わったとき
  2. 勤務先が変わったとき
  3. 改姓したとき(旧姓とも)
- } 正確にくわしく

### 校友会創立20周年記念誌の発行について

今年は本校友会が発足して20周年を迎えましたが次の会報はこれを記念し特集号として概ね11月を目途に編纂を企画しております。

## 事務局人事

昭和41年5月10日、以降長い年月にわたって、校友会の事務局の運営に多大の貢献をなされた白石実氏は一身上の都合により、昭和53年5月31日、惜まれながら退職なされた。

氏は、以前福島県教育界において、よくその重責を全うし、無欲にして、円満な人格に、私達ははじめ、多くの

方々から尊敬され、したわれております。

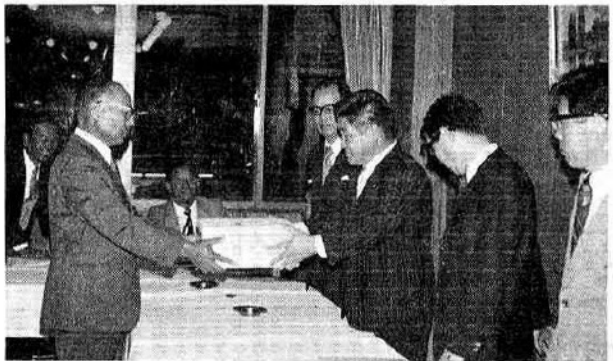
本会事務局への就職に際しては、他に有利な就職先があるにもかかわらず、願って奉職されたと伺いまして一同感銘を深くした次第でした。

昭和51年には勤続満10年を記念して、本会よりささやかな感謝の意を表しましたが、以後更に2年を加え、満12年間、その事務内容は、極めて正確、妥当、少しも落点のないものでありました。

校友会が発足して、本年度で20年になりますが、本会運営の大事な時期の大半を御世話いただき、誠に労多かつたものと推察し、心からねぎらい申し上るものであります。

退職後は、の自宅で、  
お孫さん達に囲まれて、悠々自適の幸福な生活をなされております。

なお後任には、影山氏を本年、6月1日付をもって迎えました。長く鉄道の要職を務めあげた方ですので、優秀な事務能力をお持ちでありまして、今後本会の発展に多大のご尽力をいただけるものと期待しております。



写真は、武田会長より記念品を受ける白石氏、昭和53年5月29日、明石会館での役員会席上

後になりましたが、影山新事務局職員のごあいさつをうけたまわりましたので御紹介申し上げます。

## ごあいさつ

影山 英雄



私いたって非才、未熟なものでございますが、皆様の御指導、御支援をいただき微力ではありますが当会の発展のため誠心誠意努力いたす所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

## 校友会報第33号

|        |                  |
|--------|------------------|
| 発行所    | 日本大学工学部校友会       |
| 郵便番号   | 福島県郡山市田村町徳定字中河原1 |
| 電話番号   | 979-66           |
| 振替口座番号 | 郡山(0249) 44-1327 |
| 発行日    | (郡山)1990         |
| 発行者代表  | 昭和53年7月10日       |
| 編集者代表  | 会長 武田 仁 幸        |
|        | 事務局長 佐藤 光 正      |